

---

# 平成 24 年度事業計画書

---

I. 総括	P. 2
II. 事業本部	P. 3
運営本部	P. 4
教育事業本部	P. 5
技術本部	P. 9
ET 事業本部	P. 15
III. 支部	P. 17
北海道支部	P. 17
東北支部	P. 17
東京支部	P. 19
中部支部	P. 20
北陸支部	P. 21
近畿支部	P. 22
九州支部	P. 24

## I. 総括

---

我が国経済は、リーマンショック以降、業況は概ね回復傾向にあったが、昨年の中日本大震災や急激な円高、また欧州の債務危機による影響を踏まえると、日本の経済情勢は依然として厳しい状況といえる。

こうした厳しい環境の下、当協会は一般社団法人への移行認可を得て、本年4月1日より新生 JASA としてスタートを切ることとなった。旧来の発想や活動にとらわれず、組込み業界の発展、延いては国民生活の基盤を支える技術として、社会の安心安全に応える事業活動を進めていきたい。

以下に平成 24 年度重点事業項目を示す。

### 平成 24 年度重点事業項目

1. 公益目的事業計画に沿った事業推進
2. 単年度黒字厳守による協会財産の維持確保
3. 経理処理の本部・支部一体化による予実管理の精度改善
4. 協業力の強化推進  
協業マッチング、アライアンスビジネス交流会の定例化  
地方支部への展開
5. 国際化推進  
グローバル化推進企画及び海外関連団体との連携強化
6. 組込みソフトウェア技術者試験（ETEC）の収益確保
7. 組込み技術の調査研究活動の活性化推進  
公益事業として積極的情報発信
8. ET 展示会の拡充（公益事業を支える収益事業として維持拡大）
9. 関連団体との情報交換及び連携事業推進
10. 組織の拡充

## Ⅱ．事業本部

平成 24 年度 JASA 事業本部組織表

本部名	委員会	研究会/WG 名	備考
運営本部	総務委員会		
	広報委員会	機関誌発行 WG	継続事業 1
		HP 管理 WG	
	国際委員会		継続事業 1
	協業推進委員会		継続事業 1
教育事業本部	ETEC 企画委員会	問題作成 WG	継続事業 2
	研修委員会	人材育成支援 WG	継続事業 2
	ET ロボコン実行委員会		
技術本部	安全性向上委員会		継続事業 4
	技術高度化委員会	OSS 活用 WG	継続事業 3
		実装品質強化 WG	継続事業 3
		状態遷移設計研究会	継続事業 3
		モデルベース開発検証研究会	継続事業 3
	応用技術調査委員会	技術セミナーWG	継続事業 5
		プラットフォーム研究会	継続事業 5
ハードウェア委員会		継続事業 5	
ET 事業本部	ET 実行委員会		
	ET West 実行委員会		

---

## 1. 運営本部

---

当本部は今年度、4委員会において新委員長を迎え、フレッシュな顔ぶれで新年度を迎えることになった。それに伴い各委員会の活動もさらに活性化して事業を推進する。

### 総務委員会

---

一般社団法人移行に伴い、規約等の整備を行う。

### 広報委員会

---

#### 1) 機関誌発行 WG

協会機関誌を定期発行する。4回/年

本年度は協会活動を主に積極的に広報を展開するため、記事の充実を図る。

技術情報・業界動向・会員情報・委員会活動状況・イベント等の情報を掲載し、会員のみならず関連機関や企業、教育機関等に向け、また、ET・ET West 等イベントでの配布など、広報誌として活用する。

#### 2) HP 管理 WG

JASA からの情報公開・提供を行うためホームページの運用を行う。JASA の知名度向上や各委員会活動の公開の場として活用し、開かれた JASA をアピールすることで、会員数拡大に貢献する。

一般社団への移行に伴い、4月1日付でリニューアルし、より見やすく分かりやすいページ構成とするとともに掲載情報を充実させ、広く情報発信していく。また、コラム記事として座談会（第3回）を企画する。

### 国際委員会

---

- 1) 委員会を定期的開催し、事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行うと共に、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して「委員会スピーチ」の機会を設ける。
- 2) JASA 会員を含め、広く一般に組込みシステム開発業界企業への情報提供の場として、「国際化推進ワークショップ」の開催を年1回計画する。
- 3) 日本国内で海外協会との交流を促進するため、ET2012 開催等の機会を利用した「JASA Global Forum」を計画・推進する。
- 4) 海外協会との交流を進めるために、委員会を含めた JASA 会員企業からの海外協会への委員等の派遣を実施する。また、「JASA Global Forum」開催の機会に海外より講師を招聘する。

- 5) 会員ならびに組込みシステム開発業界企業に対する情報提供と一般に対する情宣活動への貢献のため、JASA ホームページに「JASA 国際だより」を設け国際委員会から積極的に情報発信を行っていく。

## 協業推進委員会

---

協業マッチングイベントも3年目を迎え、他団体や支部との共同開催等、様々な機会を設定し、会員ならびに組込みシステム開発業界の事業アピールの機会のみならず、他団体や支部とその地域の業界企業との連携も視野に入れて以下の活動を計画する。

- 1) 川上企業と川中/川下企業のビジネスマッチング事業

開発系企業のシーズを川中/川下企業にアピールするイベントを開催する。(年1回を予定)

- 2) 他団体とのビジネスマッチング事業

CSAJ(コンピュータソフトウェア協会)とプロダクト販売系のビジネスマッチングイベントを合同開催する。(年1回を予定)

- 3) 交流支援事業

支部と支部会員、地域業界団体や企業との交流機会を増やし、地方のビジネスマッチングの土壌を形成する事業を支援する。また、国際委員会との共同での展開も模索する。(年3回を予定)

---

## 2. 教育事業本部

---

平成23年度は東日本大震災の影響で、研修 / 試験事業については法人利用者が激減した。環境が大きく変動する中、次の通り対応する。

ETECは、平成24年度委託契約より固定費を大幅に削減し、変動費(受験数連動)を中心とした予算にシフトし、受験数の変動によるリスクを極力回避できる態勢が確保された。

中国国内(中国語試験)展開については平成23年度末に現地販売代理店と契約が締結され、平成24年第1四半期より中国全土での試験配信を開始する。

研修委員会は、高度な人材養成も視野に入れ、社会人スキルアップ系研修の立案、紹介もはじめるべく、「人材育成支援ワーキンググループ」を傘下に配置する。

ETロボコンは11年目に入り、レベルが高くなり、モデルの質も走行内容も飛躍的に向上してきたが、初参加チームには、ハードルが高くなって、特にモデリング初心者とある程度経験したチームとの差が大きくなってきている。そこで、ETロボコンの本来の目的である、初級レベルを中級レベルに持ち上げるという観点からいくつかの方策を試みる。

## ETEC 企画委員会

---

- 1) 上位資格の検討

クラス2(エントリー～ミドルレベル)試験は5年で延7千受験者を迎え、導入企業への調査によると、その7割が上位(ミドル～ハイエンド)試験を希望している。

- 2) 中国展開

中国側での試験販売(受験チケット販売)を大手教育事業者と契約し、1千試験ロットで販売する。

試験運用委託先は、中国国内に251箇所の試験会場を有し、ほぼ毎日全土で受験ができる態勢が整っている。

### 3) 国内販促

固定費を極力抑え、変動費(受験数連動)の施策を展開する。

#### ○学生市場

平成23年度から開始した、会員ならびに組込みシステム開発業界企業の求人活動のタイアップを強化すると同時に、学校法人に対して求人情報提供ならびに教授陣への啓発を図り、学生受験の市場を確実に押さえる。

#### ○法人市場

既存のETEC活用企業や会員を中心とした川上企業への受験料優遇措置の導入を図る。また、企業向け研修機関による団体受験(CBT試験会場)を推進し、研修と試験(効果測定)のパッケージ化を進める。

#### ○広報/認知

組込みソフトウェア開発者が一同に揃うET-West2012、ET2012の会場にて、ETEC活用手法のプレゼンテーションを展開する。聴講者の情報を収集し、マーケティング活動に反映させる。

## 研修委員会

---

### 1) 学校法人へのアプローチ(継続)

#### ○Bulletin JASA 送付

大学、高専、専門学校の子系学科、約150校に送付する。また送付の機会を捉え、委員会からの情報発信(ET展イベント等)、また情報提供を求める。

#### ○学校訪問

下記(2)の調査結果を元に、教授陣との学習指導内容の意見交換や、研究発表等の行事に協力参加し、学生のモチベーションを図る。

#### ○プレゼンテーション

ET West2012、ET2012の対応：下記(2)の分析結果をプレゼンする。

### 2) 求人系要求スキル調査(継続)

会員を中心とした組込みソフトウェア開発企業が新人に求めるスキルを調査して学校法人や求職活動人口に広報する。

### 3) インターンシップ普及活動(新規)

平成22年度「インターンシップガイドライン」を主に会員向けに制作した。

平成24年度は利用啓発をするため、インターンシップを積極的に導入している企業の好事例を集積し、Bulletin JASA等で会員に周知していく。

### 4) 高専K-Skillプロジェクト支援(新規)

高専版組込みスキル標準を策定し、スキルの可視化を行い、質保証された学生の輩出を目的としており、組込み業界への求職を希望する高度人材育成の支援活動を行う。

具体的には、K-Skill の会合開催を支援し、意見交換を図る。

#### 5) 人材育成支援ワーキンググループ(新規)

過去に研修事業推進委員会が、新入社員研修(Off-JT/OJT)の企画・立案、訓練の主催を行なってきたが、リーマン・ショック以降、新規雇用が減る中、社内人材の高度化に向けた研修企画提案を本ワーキンググループの業務とする。

○目的：会員(企業)を中心とした、人材の高度化を目的に研修カリキュラム構築

○業務概要：

会員の人材(レベル)の実態、会員の求めるレベル、また訓練規模(期間・費用等)を調査・分析し、その求められる研修のカリキュラムを立案し、広く教育訓練機関に公示する。(事務局ではその研修を運営する教育機関の情報を集積し、JASA ホームページ等を介して業界内に周知する。)

○構成委員(予定)：学校法人の教職員(外部)、教育研修機関(会員/外部)、会員

## ET ロボコン実行委員会

### 1) 参加をしやすくするための施策

[参加申し込みに対する仮登録制]

学生チームに対して、受付締切り(4月6日)までに参加できる学生が決まらず、参加登録を迷うという声が多数あったため、仮登録していただき参加チャンスを失わないように処置。学生チーム(大学、短大、専門、高校、高専)に限定して、4月6日(金)～5月8日(火)まで、正式申込みの期間を延長する。

[競技内容]

昨年から、前半のタイムトライアルと後半の難所チャレンジに分け、難所を挑戦して失敗してもリタイアとならないようにルール変更をした。また、昨年から登場したシッポ出し走行は認めるが、今年からシッポを引っ込めないと走行できない箇所を設ける予定。

[モデルのひな形を用意]

モデル初心者が、チャンピオンシップ大会に出場するモデルを見ると、ハードルが高過ぎて、引いてしまうことが懸念される。そこで、モデリングに初心者に対しては、予めクラス図のひな形を用意し、まずは、モデルを「作る」よりも「使う」というアプローチを試みる。ET ロボコンに参加をしてモデリングの良さを知り、そしてスキルアップに期待する。

### 2) IPA 賞、情報処理学会賞

ET ロボコンは、産学官連携協力により開催されている。昨年、チャンピオンシップ大会で IPA 賞が授与されたが、今年から各地区大会にも IPA 賞が出されることになった。同様に、昨年から創設された情報処理学会の若手奨励賞も今年も引き続き授与される。

### 3) 海外展開

2/14日に開催した記者発表会で、来年以降、海外展開として検討していることを発表。海外展開は、1つの地区大会という位置づけで展開し、海外の優秀チームは11月に日本に来てチャンピオンシップ大会に出場して頂くという形態での検討をしている。まずは、台湾のTCAとの協議を始めたところ。その関係で、3/1(木)に台湾で行われた、JASAとTCA/CSF交流会議で、ETロボコン本部運営委員長のアフレルの小林社長がETロボコンの紹介を行った。

### 4) ETWest杯

6/14(木) ETWest2012において、関西地区実行委員会が昨年までのコースを使いETWest杯を実施。

### 5) 全体スケジュール

【記者発表会】(終了) 2/14(火)/ふくい南青山

メディア7社が参加。すでに、Webなどに取り上げられている。IPA/SECの松田所長に講演を頂く。

【実施説明会】 2/18(土)～3月中旬(地区ごとに実施)

モデル開発編と開発環境編の各1回ずつ、合計2回実施。

【参加申込み受付】 3/5(月)～4/6(金)17:00

【技術教育1、2】 5月中旬～6月下旬(地区ごとに実施)

【試走会1、2】 7月中旬～9月末(地区ごとに実施)

【地区大会】 下記の表の通り

【チャンピオンシップ大会試走会】 10/20(土)

【チャンピオンシップ大会】 競技会：11月16日(水)、ワークショップ：17日(木)

昨年は、10周年記念で、チャンピオンシップ大会の出場は52チームだったが、今年から例年の40チームにする。

地区	地区大会日程	地区大会 開催地(予定)
北海道	10/7(日)	北海道情報大学(北海道江別市)
東北	9/22(土)	いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市)
北関東	10/7(日) 予定	調整中(群馬県高崎市)
東京	9/29(土), 30日(日)	早稲田大学(東京都新宿区)
南関東	9/15(土), 16(日) 予	神奈川工科大学(神奈川県厚木市)
東海	9/15(土), 16(日)	浜松Uホール(静岡県浜松市)
北陸	9/22(土)	金沢工業大学 扇が丘キャンパス(石川県野々市町)
関西	9/16(日), 17(祝)	京都コンピュータ学院 京都駅前校 (京都府京都市)
中四国	9/22(土)	福山大学社会連携研究推進センター(広島県福山市)
九州	9/1(土), 9/2(日) 予	九州産業大学 (予定)
沖縄	調整中	調整中

---

### 3. 技術本部

---

技術本部は、組込み関連技術の調査研究と普及啓発活動をするために各委員会・研究会・WGを推進する。

- ・ 各委員会・研究会・WGの事業計画と予算のヒアリングを実施する。
- ・ 各委員会・研究会・WGの活動実績を理事会にて報告する。
- ・ 年1回（4月又は5月）各委員会・研究会・WGの前年度の成果の発表会を実施し、会員および一般への成果普及に努める。合わせて、審査委員を決め、成果発表を評価する。優良発表に対して当日又は総会にて表彰する。
- ・ 新規研究テーマの検討をし、必要であれば、新たな委員会・研究会・WGの発足を推進する。
- ・ ET2012にて技術本部セミナーを実施し、調査研究成果を組込みシステム業界への普及に努める
- ・ その他、必要な組込み関連技術の普及のためにセミナーを実施する。
- ・ 今年度は新たに、技術本部の各委員会・研究会・WGの今後の活動のために、関連業界と、課題やあるべき方向など、組込み技術に関する意見交換会を企画する。

---

#### 安全性向上委員会

---

機能安全規格に関連する調査研究、及び情報セキュリティ規格に関連する調査研究を例年通り実施すると同時に、本年度は今までの研究調査を踏まえ、セーフティ(S)、セキュリティ(S)及び品質管理(Q)の3要件に関して上流工程にフォーカスした方法論(要求獲得、設計技法)を調査研究することを付け加える。同時に、今まで2つのWGで行ってきたが、共通の課題も多いため、2WGを解消し委員会一本にして活動を行うこととした。

主要課題を3項にまとめると、以下になる。

#### 1) 機能安全 IEC 61508/ISO26262 関連調査研究

今年度は昨年の機能安全規格 IEC61508Ed. 2(H23/4)発行、自動車の安全規格(ISO 26262IS 版 11/15 発行)を踏まえ、また、ET2011のアンケート要望も踏まえて、以下の活動を中心に技術の掘り下げ、交流を実施していく。

- ・ 現場サイドからニーズの多い安全に係わる設計製造技術の調査。
- ・ 機能安全関連製品調査を例年どおり継続して実施する。

#### 2) 情報セキュリティ関連調査研究

組織の情報セキュリティ管理制度 CMSiS の補足的調査研究を行う。なお、ISO/IEC 15408 の ST の記述法に関する調査研究は(3)の SSQ 研究にて行う。

#### 3) セーフティ・セキュリティ・品質(=SSQ)上流工程関連調査研究

要求仕様の確定工程と設計工程との「様々の問題」により、要求の実現がなされず、最終的な製品も品質の問題を起しているということに関して、上流工程の「様々の問題」の調査研究を行う。初年度は要求仕様にフォーカスし、要求がどのような工程で、

どのように書かれて、またどのような問題を起こしているのか、に関して、技術問題、マネジメント問題等として、可能な限り実証調査を行い、成果を公開する。

## 技術高度化委員会

---

### OSS 活用 WG

オープンソース・ソフトウェア(OSS)として、無料で高機能、高性能なソフトウェアが多く出回っている。しかし、オープンソース・ライセンスは、ソースコード公開の義務があり、取扱いが難しいと考えられている。本委員会は、OSS の使用を活発にさせるため、2 つの WG を設けて活動を行う。

#### 1) OSS ライセンス SG

##### 活動概要

SI や受託開発に際し、OSS を活用し費用を最小限にとどめつつ、柔軟な対応力を提供するには、OSS に付帯するライセンス条件を配慮した開発体制やスキームの構築が重要な課題となる。

本 WG では、23 年度下期より、新たに委員を募集し活動を再開した。ライセンスコンプライアンスを配慮した開発リスクマネジメント体制とは、そのモデル構築のためには何をすればよいか。OSS の利用実態調査、ライセンス検出ツールの活用に対する調査などを通して SI・受託開発における安全で効率的な OSS 活用環境の提供を目指し下記の活動を推進する。

- ・ OSS 利用に関する実態調査
- ・ リスクマネジメントモデルの検討
- ・ OSS ライセンスの検出ツールの調査と活用ガイドラインの作成

#### 2) 組込み仮想化技術 SG

OSS 活用のための一つの鍵である、仮想化基本ソフトウェア(ハイパバイザ、仮想化モニタ)の組込み分野での技術の整理、啓発活動などを行う。OSS ライセンスのソフトウェアとプロプライエタリ(私的財産)のソフトウェアを混合して運用することは、無用な誤解を招く場合がありえる。仮想化技術はソフトウェアの絶縁性を認められているので、OSS ライセンスにまつわる誤解を招かない。

また、仮想化技術は Xen, KVM, VirtualBox, Linux, BSD などのオープンソースの基本ソフトウェアによって高速に進歩している。

本 WG では、組込み分野の仮想化技術が、広く理解され使用されるように、用語の安定化、基本ソフトウェア比較のための指標作り、啓発資料づくりを行い、市場形成の一端を担っている。

2011 年度は、定量的比較が可能な、ベンチマーク・スイートを作り、有志のメンバーで仮想化基本ソフトウェアの性能計測を行った。2012 年は、ベンチマークの結果収集、用語安定化に尽力、加えて JASA 主導による組込み仮想化の技術的な日本標準を作ることを探る。

## 実装品質強化 WG

### ■ 概要

本委員会では、組込みソフトウェアにおける製品競争力も含めた意味での実装品質強化に関して実態を調査し、併せて、実装品質を強化するための新技術を調査・整理する。成果は、業界デファクトの利用ガイドを目指し公開、提案を行い、会員企業を初めとし広く一般の利活用を促進する。

委員には、2つのサブワーキンググループ（WG1, WG2）を設け、おのおの年6回程度詳細検討を行う。平成24年度の各WGの目標は以下のとおりである。

### ■ 詳細

- 1) SWG1は、昨年度実施したアンケート結果、ET報告結果での参加者フィードバックをふまえて、アンケート結果のさらなる分析、委員会での検討結果を加え「実装品質に関する技法・ツールの利用ガイドライン」をまとめることを目標とする。
- 2) SWG2は、昨年度試行した「実製品における非機能要求実装方法の調査競争力を持つ製品での聞き取り調査と分析（東洋大学調査委託）」を継続し、暗黙知である非機能要求実装の流れや評価メトリクスを形式知化するための分析を進め、組込み向け非機能要求の実装方法についての標準ガイドライン作成を目標とする。

なおWG2では、非機能要求グレード、非機能要求とアーキテクチャ分析WG報告書(IPA)やREBOK(JISA)といった既存の情報を参考に、組込みシステムに適合する非機能要求を(網羅的にではなく選択的)体系的にまとめることを目指す。

## 状態遷移設計研究会

本研究会は2010年度より取り組んでいる、状態遷移表設計を使用した製品開発における派生開発を効果的に行う手法のガイドラインのとりまとめを継続し、当初の目標として示したガイドラインの公開を行う。

### ■ 詳細

状態遷移設計研究会は、状態遷移の検討漏れに気づきやすいという特性を持つ表形式の設計手法を普及することで、組込みソフトウェア業界の発展に寄与し、ひいては国民生活の向上に貢献することを目的とする研究会である。

本研究会は2010年度より、状態遷移表設計を使用した製品開発における派生開発を効果的に行う手法のガイドラインのとりまとめを目標とする研究に取り組んでいる。

派生開発の品質向上と効率改善は、組込みソフトウェア業界の共通の課題であり、多くの企業の関心を集めるテーマである。

2010年度の成果として、フィーチャ・モデルによる要の分析によって、干渉を低減し、階層的な状態遷移表の分割を導出する機能分割が可能であるとの仮説を得た。

また、第25回ETセミナーの集客状況や、設計手法普及調査アンケートの結果から、本研究会の研究テーマはソフトウェアの開発を行う多くの企業の重要な関心事であることを確認することができた。

また、2011年度は、前述の仮説の詳細化および洗練と仮説の検証と計画した。

仮説の詳細化では、検証可能な段階まで明確化・詳細化した手順を記述し、ガイドライン策定の雛型として「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」を取りまとめ、ET2011 の公開セミナーで紹介した。

仮説の検証においては、詳細化された仮説に基づいた開発を試行し、その結果を評価、手順にフィードバックし仮説を洗練していく計画を立てたが、実践ガイドの取りまとめと並行しての開発の試行・検証作業は実施できず、ガイドラインを作成したのち、それをベースにした開発を試行し、検証／フィードバックするよう計画の見直しを行った。

2012 年度は、2011 年度の成果である、「状態遷移表による SPLE 実践ガイド」をベースに、プロセス定義の詳細化、プロセスに対応した入出力ドキュメントの規定／書式などを整備し、有識者のレビューを踏まえ、ガイドの完成と公開を計画する。

また本研究会の活動内容の妥当性を検証し、今後の研究の方向性を探るための設計手法普及調査アンケートの実施、検討のための知見を深めることを目的とする公開セミナーの企画、本研究会の活動内容に関心のある企業等に広く伝えるための成果発表などの取り組みも、併せて行っていく。

### モデルベース開発・検証研究会

前年度まで継続的に行なってきたヒアリングやセミナーでの成果を踏まえ、「モデリング」と「検証」が、企業内で実践的に導入される為に推進活動を行なっていくことが重要であるという結論に基づき、今年度は、本研究の先導的技術者を育成するための教育や具体的なモデル・検証例を公開・普及啓発活動を主に行なっていく。

#### ■ 詳細

前年度、「モデリング」と「検証」についてヒアリングやセミナーを実施し調査研究を行った結果、それぞれの重要性、必要性に対する認知度は高いが、実践的に企業内で実施されている例は少なかった。導入への障壁の主因は“どのようにもモデル化するか”、“従来試験と異なる検証とはどのように行うのか”という具体的実践例が少ないことであった。

この状況を打破するために企業内での先導的技術者を育成するための教育を実施していく。また本研究会よりモデル・検証手法の公開・周知を行い普及促進を行い、かつ、その内容に対してのフィードバックを反映しながら、より実践的技術の企業導入への促進を図る。

また、昨年度までのヒアリング結果より、既に Matlab 等を活用し連続系モデルのモデルベース開発を行なっている事例があることを踏まえ、離散系（振舞い）モデルと連続系モデルの統合的な開発・検証手法も調査研究範囲としていく。

具体的な実施計画は以下のとおりである。

- (1) 前年度公開した MDD（モデル駆動開発）モデルを元にモデリング技法・検証技法の公開・周知を HP 等で行う。
- (2) 本研究会の活動報告と企業への先進的導入の為にセミナーを開催する。
- (3) モデルベース開発と検証の教育カリキュラムを実施する。

また、本研究会は九州を拠点としながら、その成果を全国展開することを目標とし活動していく、その連携拠点として QUEST（NPO 法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム）と連携し教育カリキュラムを実施していく。

## 応用技術調査委員会

---

### 技術セミナーWG

#### 1) JASA/ET セミナーの開催

ET でのセミナー開催のノウハウを生かした、組込み技術関連の有料セミナーの定期開催を行う。企画の立案は JASA の他委員会からも募り、当委員会は運営に力を入れることで、開催回数の増加を図ると同時に企画の一貫性を保ち、JASA の啓発活動につなげる。

年間 4 回程度の開催を予定。なお、昨年までより、よりフレキシブルなテーマ/費用設定を試みるが、有料セミナーであることは維持する。

#### 2) 地方開催セミナー

昨年の名古屋、仙台での開催に続き、年 2 回程度の開催を予定する。各支部との共同開催。地域振興・活性化と JASA 活動の啓発を目的とし、無料セミナーとする。

昨年実績：

11 月：仙台（東北 IT ソリューションエキスポ会場にて）

11 月：名古屋（フロンティア 21 エレクトロニクスショー会場にて）

### プラットフォーム研究会

平成 23 年度に引き続き、次世代の共通基盤となる技術や考え方を探究し、プラットフォーム(PF)については具体的なテーマで深堀を行う。

#### ■ 詳細

#### 1) ロボットのソフトウェアに関する調査を行う。

経済産業省が提言する戦略 5 分野の中の先端分野に属するロボット分野においてベースとなる PF 技術についてソフトウェアを中心に深く調査・検討し、まとまった時点で JASA のホームページに公開する。

#### 2) トレンドや新規技術の動向を調査し、情報を共有する。

PF を基軸とした最新トレンド情報を調査して持ち寄り、会員同士で情報共有するとともに、技術媒体等に投稿して一般公開も図る。

#### 3) Open EL

平成 23 年度にプラットフォーム研究会が提案し、広く一般に公開した OpenEL for Robot バージョン 0.1 の仕様について引き続きワーキンググループ活動で深く調査・検討し、OpenEL for Robot バージョン 1.0 の仕様に反映する。

### ハードウェア研究会

---

前々年度の「組込みシステム」に関する経営的側面の調査検討に続いて、前年度は技術的側面からの調査を開始した。本年度も、委員会内外の有識者による講演や企業視察等の活動を踏まえて継続して調査を行う。また、外部団体（JPCA、高専等）との交流や前年度

に開設したプラグフェスト（インタフェース規格を持つ応用製品メーカー同士が自主的に自社製品と他社製品の相互運用性を実機検証する技術イベント）の担当窓口及び運営支援活動を通して、内外に JASA 及びハードウェア研究会の活動成果を広めていく。

## ■ 詳細

### 1) 「組込みシステム」の技術調査（会議開催 5 回／年）

以下の 5 つのテーマについて担当グループにて調査を継続する。

WG1) 組込みシステムの時代による変化（発展性）

WG2) 組込みシステム構成におけるハードウェアの位置付けの変化

WG3) 組込みシステム技術者に重要さを増す従来ハードウェア・スキルとは

WG4) 組込みシステム技術者に求められる新しいハードウェア・スキルとは

WG5) ポスト組込みシステムとは何か

### 2) 企業視察（関東近隣企業の視察 3 回／年）

1) の技術調査を目的に、関東近隣企業 3 社の企業視察を行う。

### 3) 研修会（2 回／年）

委員会内外の有識者の講演による研修会を開催する。

### 4) プラグフェスト運営支援

前年度 3 月 15 日～16 日、東京都立産業技術研究センターにて JASA 主催の第 1 回プラグフェストを開催した。本年度も継続し年 2 回の開催を企画する。また、前年度は HDMI（デジタル家電向け映像・音声インタフェース規格）の検証からスタートしたが、USB、PCI Express、IEEE1394、ThunderBolt 等の企画も検討して行く。

### 5) 外部団体（JPCA、高専等）との交流

JPCA（電子回路工業会）ショー（6 月 13 日～15 日開催）への参加による JASA 及び組込みシステム技術の広報活動、及び電子回路基板の新技术情報を収集し当研究会の技術調査活動に反映する。また、WG3、WG4 にて調査するハードウェア・スキルの技術要素は、K-Skill（文科省推進事業の高専版組込みスキル標準開発・実践プロジェクト）との情報交換も必要に応じ進めて行く。

## 4. ET 事業本部

組込み業界を牽引する JASA 主催のイベント事業として展開する。

最新の組込み技術とソリューションを多くの技術者・関係者に対して情報発信するとともに、産学官・関連機関との連携、地域活動の促進、海外展開と関連市場の活性化を図る。

### 1. Embedded Technology 2012/組込み総合技術展の開催

世界最大級の組込み専門技術展として、昨年に引き続き、EDS Fair との同時開催により、ハードウェア設計からシステム・ソフトウェア開発技術までを集約した展示会として拡充を図る。

今年度の企画として、新たな産業分野をも展望できるよう、「スマートエネルギー」「オートモティブ」「ロボティクス」「スマートアグリ」「スマートヘルスケア」「モバイル/クラウド」の6つのターゲットアプリケーションテーマを設け、その共通技術である ET (組込み技術) と併せた展示・カンファレンスを企画・運営する。

また、海外からの企業誘致と来場動員を図るとともに、講演者として海外メーカーを招聘するなど、ビジネス展開の促進を図る。

#### <開催要綱>

- 会期 2012年11月14日(水)～16日(金)
- 会場 パシフィコ横浜 展示ホール及び会議センター
- 主催 (社)組込みシステム技術協会
- 企画・推進 (株)ICS コンベンションデザイン
- 後援 横浜市、情報処理推進機構、アメリカ合衆国大使館商務部、  
英国大使館貿易・対英投資部 (以上、申請予定)
- 協賛 日本貿易振興機構、科学技術振興機構、(財)日本情報処理開発協会、  
(社)情報サービス産業協会、(社)電子情報技術産業協会、  
(社)日本半導体ベンチャー協会、(社)情報処理学会、  
(社)IT 検証産業協会、高速信号処理応用技術学会、  
東京都立産業技術センター、(社)Open Embedded Software Foundation、  
台北市コンピュータ協会、(社)組込みスキルマネジメント協会 (以上、予定)
- 入場料 1,000円 (事前登録及び招待状持参者は無料)
- 併催行事 ET ロボコンチャンピオンシップ大会
- 開催目標 出展社数：400社・団体 (前回：386社)  
来場者数：23,000名 (前回：22,449名、EDSF 合計：28,538名)  
カンファレンス受講者数：延 12,000名
- 同時開催 Electronic Design and Solution Fair (EDSFair)

## 2. ET West 2012／組込み総合技術展 関西の開催

関西唯一の組込み専門技術展&カンファレンスとして開催する。

近畿支部をはじめとして、経産局、関連機関等との連携により、関西地域の特色を生かした展示会とカンファレンスを企画・運営し、広く西日本における関連産業の発展に寄与する。

また、今年度より「Smart Energy Japan in Osaka (SEJ)」との同時開催により、新エネルギー、スマートグリッド等分野を捉えた展示とカンファレンスを企画・実施するとともに、エネルギー関連企業からの来場拡大を図る。

### <開催要綱>

- 会期 2012年6月14日(木)、15日(金)
- 会場 インテックス大阪 5号館及び国際会議場
- 主催 (社)組込みシステム技術協会
- 企画・推進 (株)ICS コンベンションデザイン
- 後援 近畿経済産業局、大阪府、大阪市、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県、情報処理推進機構(以上予定)
- 協賛 関西経済連合会、組込みシステム産業振興機構、大阪商工会議所、(財)関西情報・産業活性化センター、近畿情報システム産業協議会、(財)大阪科学技術センター、(財)大阪市都市型産業振興センター、(社)電子情報技術産業協会関西支部、(財)大阪産業振興機構(以上予定)
- 開催目標 出展社数：100社・団体 200小間  
来場者数：7,000名(同時開催展含む)  
カンファレンス受講者数：延4,000名(前回：延3,932名)
- 同時開催 Smart Energy Japan in Osaka 2012

## Ⅲ. 支 部

---

### 北海道支部

---

#### 1. はじめに

北海道支部は、小規模ながら会員企業の強い結束のもと、組込みシステム技術の啓発普及に努め、業界の発展に寄与することを最大目標としている。

そのため、関係団体と共同してセミナー開催、異業種交流など市場開拓・協業化につながる活動を展開し、会員拡大の為に活動を行うこととする。

#### 2. 事業活動

組込みシステム技術の啓発普及に努め業界の地位向上を目指す。

業界団体と連携し、中小企業向け補助金、金融等の情報提供および有効活用を提言し、企業の一層の体質強化に努める。

行政への提言を行うほか、会員相互および異業種との協業化を推進し、事業機会の拡大を図る。

- 1) 組込みシステム技術の啓発普及のためのセミナーを開催する。
- 2) 他地域の組込み関連産業の視察および情報交換を実施する。
- 3) 国・地方自治体等の事業公募・補助金・融資などの情報提供を行い、会員の財政基盤の強化・拡大を図る。

---

### 東北支部

---

昨年は東日本大震災があり直後のイベントは延期を余儀なくされましたが、5月からは活動を再開し、震災復興に関連したイベントも臨時で開催するなど、一年を通して活発な活動を実施することができました。東北支部は今年で3年目に入りますが、引き続き、支部内の活動、他地域や他団体との交流会や情報交換、公益事業や各種イベントなど活発に活動して参ります。また、TOHOKU ものづくりコリドーの一員として、大型出展事業(ET2012)や協創マッチング事業にも積極的に参画し、より効果的なビジネスマッチングを目指して参ります。

そして、地域の組込み産業の活性化、引いては日本の組込み産業活性化への貢献を目指して、存在感を内外に示せる活動を継続して推進して参ります。

#### 1. 会議

- ・支部会議 1回(5月)
- ・常議員会 3回(9月、1月、3月)

## 2. 事業

### 1) 支部常議員を推進役とする活動の推進

東北支部の活動の一環として、技術者の技術の向上を図るセミナー、技術者の交流を図る技術交流会などの事業を企画・推進し、支部常議員が率先してこれにあたる。

### 2) 技術交流・協業支援の場の活用

JASA ビジョンの実現の場として、本部の技術交流・協業推進委員会を活用する。

- ・東北 IT ソリューション EXPO 基調講演（技術セミナー委員会との共催。1回。）

### 3) 協会の情報公開

本部理事会・支部常議員会の情報を一般会員の参加できる場（支部総会等）で公開し、協会の諸事業等に関する情報を一般会員へ周知徹底し、一般会員との情報に関する乖離を解消する。

### 4) 組込み産業に関わる補助事業や人材高度化支援事業等の推進

組込み分野の研究開発補助事業や人材育成事業について、行政や他団体の施策も含めての情報を収集し、会員企業へのフィードバックを行う。また、施策への参画に当たっては、会員企業同士の支援を積極的に行う。

### 5) オープンセミナー、交流会の開催

JASA 会員、JASA 会員以外の企業、官公庁、自治体との交流促進、協会事業の周知徹底、業界動向の情報収集等を目的に、オープンセミナーや交流会を開催し活用していく。セミナーには、学識経験者をはじめ専門家を招聘するほか会員の中からの情報提供を重視する方法を取り入れていく。

- ・オープンセミナーの開催（2回）
- ・IPA/SEC との共催セミナーの開催（1回）

### 6) 協会本部事業へ支援協力

- ・Embedded Technology 2012  
(組み込総合技術展／パシフィコ横浜 11月14日～11月16日開催)

### 7) 産学官交流の推進

大学、研究機関等との連携を図ることで新分野への進出、新技術の習得など会員企業の活性化を図る。

### 8) その他諸事業の推進

上記に属さない事業で、協会の発展につながる事業については積極的に対応する。  
団体保険制度・全国システムハウス業厚生年金基金の普及啓発。  
TOHOKU 高度 IT フォーラム事業への参画。

---

## 東京支部

---

経済状況がまだまだ厳しい中、当協会でも状況は決して良くない中、東京支部は、協会全体の会員数の約半数を占めるようになり、従来に増して東京支部への期待が高くなっている。

これをふまえて、東京支部としては、昨年度に引き続き、本部事業への積極参加を強化し、開かれた協会事業を展開していきたい。

また、支部独自の事業を推進し、特に東北・沖縄との関係を深め、他方では、会員企業の若手技術者の支部事業への積極的な参加を促していきたい。

東京支部としては、組込み技術の普及を事業の柱として、昨年度に引き継ぎ本年度も会員増強、人材育成、会員間交流活性化を推進していく。また、本部が推進する諸事業への支援、ETEC（組込みソフトウェア技術者試験）、ET2012（組込み総合技術展）など、全国の核となってリーダーシップを発揮していく。

### 1. 会議

- ・支部会議 1回（5月）
- ・常議員会 4回（5月、7月、11月、2月）
- ・支部例会 3回（8月、12月、3月）

### 2. 事業

#### 1) 支部常議員を推進役とする活動の推進

東京支部の活動の一環として、若手向けの研究開発助成金事業を推進し、会員の若手技術者の技術の向上、交流を図る。また、就職説明会を開催し、会員の新人獲得をバックアップしていく。

これには、支部長を推進委員長とするワーキンググループを設置し支部常議員が率先してこれにあたる。

#### 2) 新入会員の入会促進キャンペーン

東京支部の会員を増強するため、会員の入会を促進する入会促進キャンペーンを行い、新規会員の獲得に努める。

#### 3) 協会の情報の公開

本部理事会・支部常議員会の情報を一般会員の参加できる場（支部会議等）で公開し、協会の諸事業等に関する情報を一般会員へ周知徹底し、一般会員との情報に関する乖離を解消する。

#### 4) 人材高度化支援事業等の推進

人材高度化支援事業としてセミナー事業を推進する。

#### 5) 支部例会の開催

支部会員の交流促進、協会事業の周知徹底、業界動向の情報収集等を目的に、支部例会を開催し活用していく。例会には、学識経験者をはじめ専門家を招聘するほか会員の中からの情報提供を重視する方法を取り入れていく。

## 6) セミナー、研修事業、交流会の実施

- ・フレッシュャーズセミナーの開催
- ・組み込技術者入門研修会の実施
- ・営業・管理者教育
- ・経営者セミナー及び交流会

---

## 中部支部

---

昨年度には東日本震災、福島原子力発電所の爆発、タイでの大洪水等、100年に1度あるかないかという大災害があり、リーマンショックからようやく立ち直ろうとしていた我が国経済は大打撃を受け中部地域の産業も大きな影響を及ぼしている。国の経済も危機的な状況にあり消費税増税のための内閣改造が発表され国の政策が大きく変化してきている。産業振興政策、中小企業政策に対する考え方が不透明になっている。

産業の基幹技術でありモノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術もコンピュータ利用技術の変化によって大いに影響を受けることと予測される。組込みシステム技術が今後もその地位を保ち続けていくためには、常に周りの環境変化に対応する柔軟性が求められる。当地域の得意分野といわれる輸送機産業、産業機械産業、電子産業等に蓄積されている技術とノウハウを積極的に活用し、研究開発機能を強化し、地元理工系大学との連携の促進を一層図っていく必要がある。

当支部では、組込システム技術業界の振興と会員相互の交流・啓発及び、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

### 1. 会議

- ・支部会議
- ・常議員会随時
- ・定例会（情報交換会）

### 2. 中堅幹部研修会の開催

### 3. 見学会

会員企業訪問・交流見学会  
情報系大学への見学会

### 4. 産業視察

海外産業視察（COMPUTEX TAIPEI）  
国内産業視察

### 5. 組込みシステム技術等の普及・啓発

- 1) 講習会、講演会、説明会の開催  
定例会、科学技術月間と組み合わせて行う講演会を計画する
- 2) 技術研究会  
アジャイル研究の研究会を平成24年度より発足させる。月1回程度開催

6. 会員交流事業
  - 1) 支部会員企業案内の作成
  - 2) 企業社員交流会
  - 3) 経営者交流会
7. 産学交流の推進

情報系大学のへ見学と意見交換
8. 広報事業
9. 年金基金への参加推進
10. 支援協力事業
  - 1) 「エレクトロニクスショー」への協力
  - 2) 名古屋商工会議所事業への協力
  - 3) 中部経済産業局が行う組込みシステム技術に関連する事業への協力
  - 4) 中部地域イノベーションパートナーズシップへの協力
  - 5) 名古屋市工業研究所への支援協力
  - 6) その他情報関連団体への事業協力

---

## 北陸支部

---

北陸支部は小規模ではあるが、北陸地域における組込みシステムのリーダ組織として、地元情報産業団体・産学官等との連携をベースにシステム受託ではなく、システム最終製品をイメージした事業展開を目標に、交流・マッチングをベースとした支部活動を推進いくこととする。

### 1. 定例会議の開催と支部活動の活性化

年3回程度の定例会議を開催し、事業計画の策定・実施・進捗状況の把握を行うとともに、会員相互の交流と業界動向等情報の共有化を図る。

また、地元情報産業団体・産学官との連携及び他業界との交流等により業界振興策などの検討を行う。

### 2. 福井県との意見交換会への参加

福井県が実施する「施策説明会」等へ参加し、意見交換を行う。

### 3. 会員企業のスキルアップ及び交流活動

セミナー・展示会（ET2012等）への参加及び国内・海外への視察研修を実施し、会員技術者のスキルアップを図るとともに会員相互の交流を進める。

### 4. 展示会への出展

地域開催の展示会等に積極的に出展する。

（北陸交流技術テクノフェア・ふくいITフォーラム2012等）

### 5. 広報活動

官公庁・業界団体への当会情報の提供等を通じての広報活動を推進する。

---

## 近畿支部

---

本年度より一般社団法人への移行となり、公益活動の団体となった。新法人の意向を踏襲し、支部活動を遂行していく。

従来から取り組んでいる事業内容を精査し、会員をはじめ、多くの企業が参画出来る場の提供と、企業間の協業が拡大出来る仕組みを事業の柱となる様、積極的に事業計画を推進していく。

又、ET-West（組込み総合技術展・関西）の展示会を通じて、関西圏地域の業界の発展、活性化に寄与していく。

### <支部活動>

#### 1. 近畿支部会議年1回（4月）

- ・平成23年度事業報告及び収支決算報告
- ・平成24年度事業計画及び収支予算報告

#### 2. 常議員会年5回（5月、7月、9月、11月、2月）

支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。  
近畿経済産業局との意見交換会を、適宜開催する。

#### 3. 事業委員会

支部では3つの事業委員会を柱に、各委員長が中心となって年間事業計画を検討、実行する。各委員会はそれぞれの目的をもって活動を推進する。

- ・総務・企画委員会（業界経営基盤の強化、推進支援を図る）
- ・技術・業務委員会（情報処理技術の高度化対応を図る）
- ・広報・マーケット委員会（市場の開発と知名度向上を図る）

#### 4. 本部との連携による活動推進

本部活動への参加、協力、支援を行う。また、本部の協力を得て支部の事業活動を活性化し、相互連携を推進する。

#### 5. 行政や他団体との連携・協調推進

他団体及び関連先との交流・連携を行い、会員企業に有益な情報を随時提供する。

- ・近畿経済産業局
- ・関西電子情報産業協同組合（KEIS）
- ・大阪科学技術センター（OSTEC）
- ・（財）関西情報・産業活性化センター（KIIS）
- ・近畿情報システム産業協議会（KISA）

メンバー間のビジネス交流を促進したカンファレンスは、4年目となる。京都、大阪、神戸各地域と海外企業も含めたビジネス創出の場として開催され、毎年参加している。

## <委員会事業活動>

### 1. 総務・企画委員会

#### 1) 総務交流フォーラム（総務諸問題研究部会）

各社管理部門担当者の人材育成を目的に3回程度開催する。

各社が抱える問題をテーマに取り上げ講師を招聘、討論を交えたセミナーとする。また、各社のネットワーク強化も図る。

#### 2) 賀詞交歓会

近畿情報システム産業協議会（KISA）加入7団体主催で、毎年各方面から講師を招き「新春IT振興フォーラム」を開催。

賀詞交歓会では来賓に近畿経済産業局の地域経済部長、近畿総合通信局の情報通信部長を迎え、加盟7団体（314社）の会員企業との交流を図っている。参加者が年々増加の傾向にあり、業界他団体企業との交流を更に広げる。

#### 3) 新入社員ビジネスマナー研修

関西電子情報産業協同組合（KEIS）との共催で、新卒採用者のビジネスマナー研修を4月上旬に行う。新入社員としての基本マナーを習得することが出来、社員教育の一環を担う。

### 2. 技術・業務委員会

#### 1) 技術交流フォーラム

各社技術系担当者が研究施設や行政の施設等を訪問。現場で必要とされている情報収集、他社との交流によるネットワーク作りを目指す。

#### 2) 会員月例会（近JASAフォーラム）

常議員会終了後、年4回開催する。

会員企業間の意見交換、情報交換を行い、参加者の交流を深めることを目的に行う。会員企業紹介・開発製品PRを行う他、他団体からの有益な情報等も提供する。

#### 3) 技術セミナー

会員企業技術者の育成と技術力アップを目指したセミナーを開催、企業内ではできない研修の場を提供する。

本年度は、4回開催予定。うち1回はETWest2012のカンファレンスを聴講する予定。

### 3. 広報・マーケット委員会

#### 1) 市場開発交流フォーラム（ビジネス開発研究部会）

各社営業担当者が会員会社を訪問。企業が持つ優位点、抱える問題点等をテーマに話し合う。各社それぞれの営業戦略に結びつけ、営業促進を目指す。本年度は3回開催し、会員企業間のネットワークを強化する。

また国内の同業・異業種企業の施設訪問、研究機関の見学も実施する。

#### 2) 海外視察研修

支部では「アジアのコンピュータビジネス」の実現に取り組んできた結果、東南アジア視察を行っている。本年度も継続事業とし、近隣諸国の視察を検討する。

#### 4. ET-WEST2012（組込み総合技術展・関西）

7年目となる組込み専門技術展示会及びカンファレンスの開催に取り組む。日程は6月14日・15日の2日間、会場はインテックス大阪を使用する。今年は「Smart Energy Japan 2012」と共同開催となり、これまでとは異なる分野の出展社、来場者の獲得を目指す。

#### 5. その他

##### 1) 他支部との交流

会員企業の事業強化を目指して、各支部との交流を推進する。

##### 2) 会員増強

継続して会員企業にご紹介をお願いする。また、ET-WEST開催、組込み技術者試験実施を通じ、会員増強に繋げる。

---

## 九州支部

---

#### 1. 運営

本部と共同して、支部会員間の連携強化および支部会員外とのビジネスマッチングを強化するにふさわしい企画・運営。

#### 2. セミナー開催、協賛

- ・ES-Kyusyu（九州地域組込みシステム協議会）共催6月
- ・協業セミナー（7月、1月）

#### 3. ET ロボコン九州地区大会

- ・九州地区委託先との連携
- ・技術説明会（5月、6月）、試走会（7月、8月）、地区大会（9月）

#### 4. 常議委員会開催

- ・年4回：4月（支部会議）、7月、10月、1月（事業計画）

#### 5. スポーツ交流会の開催

- ・基金助成金（7月1日～8月10日）

#### 6. その他

九州地区の団体との連携・協力を行い、支部の活性化を計る

- ・特に教育、セミナー、各種ワーキング  
「福岡市組込みソフト開発応援団」、「NPO九州組込みソフトウェアコンソーシアム」  
「九州地域組込みシステム協議会」、「JASAモデルベース開発・検証研究会」

以 上